

「一生もの」ビンテージ家具



愛情を持って丁寧に家具を磨く木村さん

— 和歌山市 SHEEP SHED —

1950年代から70年代にかけて作られた北欧ビンテージ家具を取り扱う、和歌山市内原の「SHEEP SHED」(シープ・シェッド)。「仕入れから修理(メンテナンス)、販売までを自社一貫体制で行う、県内では珍しいスタイルで、オーナーの木村修平さんは「家具は自分のライフスタイルを作るもの。ぜひ、一生ものを見つけてほしい」と笑顔で呼び掛けている。

同店は先月13日にオープン。約100坪ある店内は、展示スペースに加え作業場や事務所も併設。年月を経たビンテージ家具が磨かれ、輝きを取り戻していくのをガラス越しに見学できる。

木村さんは美浜町出身。「ものづくりが大好きだった」という幼少期を経て、神戸芸術工科大学に進学。卒業後は、北欧ビンテージ家具の輸入販売などを手掛ける「BELIEB(ベルベット)」「(埼玉

県)に就職し、11年間職人として生地の張り替えや木の接ぎの修理技術を学

び、買い付けや営業など経営の知識も習得。その後、「家具やお客さまに対して最後まで責任を持つ」をモットーに、

全工程を自社で行う



ヨーロッパのビンテージ家具が並ぶ店内

同社を1人で立ち上げた。

力を入れるのは、オリジナルの風合いをそのままに一番良い状態に修復、回復させるメンテナンス

ス。美しい木目を出すため、手作業で時間をかけて研磨する。単に磨いてきれいにするのではなく、

背景や職人に敬意を払い、丁寧にメンテ

ナンスすることで、新たな息吹を吹き込み、次の世代へと引き継ぐのが木村さん流。

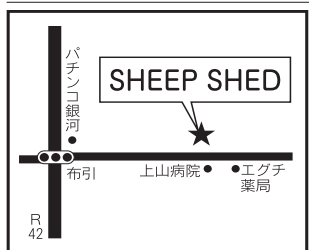
展示スペースに並ぶのは、デンマークやオランダなどヨーロッパ各地のビンテージ家具が中心。引き出しが豊富なチェストや大人数でも同時に食卓を囲めるよう、エクステンション天板が内蔵された

テーブル、中央がくびれたユニークな形のスツールなど。「どれも大切に使い込まれ、独特の風合いに育った1点もの。シンプルかつ機能的で、日本の住宅にも、よくなじむ」と話す。

素材は、木目が美しいチークやローズウッド、オークなど。今では手に入りにくい天然木。木村さんが「時間がたつと上った色」と表現する経年による色調変化が魅力で、長年愛用するほどに風合いは増すという。

都心部と地元に近いこの場所で、起業して1カ月弱。改装も取り扱っている。

【SHEEP SHED】和歌山市内原997の1▽午前11時から午後6時まで▽不定休



TEL 073・488・2369 @sheepshed_shop